

要約

市役所 3 階 第 1 会議室

【出席者】

事務局 5 名

【日 程】（進行 3、4…座長 他は教育次長）

- | | | |
|---|---------------------|----------------------------------|
| 1 | 開 会 | |
| 2 | あいさつ | 渡辺座長 |
| 3 | 前回の感想と検討会に対する意見について | 全委員 |
| 4 | これからの教育の動向について | 井出副座長、小林昭委員 |
| 5 | その他 | 次回 平成 29 年 3 月 28 日（火） 19：00～ |
| | | 第 4 回 平成 29 年 4 月 21 日（金） 19：00～ |
| 6 | 閉 会 | |

【會議録】

3. 前回の感想と検討会に対する意見について

- 委員・学校改築計画は、率直にいうと難しいと感じた。学校は安全・快適でなければならない。そのためには、新築が安心と思っていたが、市全体のインフラの老朽化、財政状況、校舎の建て替え費用などを目の当たりにすると一概にそうとも言えない。
- ・学校の統合などは、個々の考え方が様々で難しい課題だが、皆で一番良い妥協点を見出せればと思う。
- 委員・学校改築計画の検討にあたり、学校の改築時期と予算を1枚の年表にしてまとめると現実的な話し合いができるのではないかと。
- ・次の改築工事に向けた予算確保についても、見直しなどを検討する必要がある。
- ・教育内容など学校がどうあるべきかを検討し、小諸市の人口増加に向けた取り組みのアピールポイントになるような方向で考えていけたら良い。
- 委員・学校は避難場所でもあるので、80年間維持できる建物であることや、災害の被害を受けにくい建物であることなど、構造等の検討も必要だと思う。
- ・災害時に、子どもにとっても一番安全な避難場所として考えると、建設費用も検討する必要がある。
- ・学校に必要な備品の整備や英語の導入などに関して、できることから解決していくことができればと思う。

- 委員 人口が少ない地域に住んでいるため、学校が存続していけるのかと感じた。学校は防災拠点のほか子どもたちが集まる場所のため、学校は残したいと思う。今後の会議でいろいろ勉強したい。
- 委員・これまであまり意識をしなかったが、児童数の減少は予算的な面も含めて、自分が思ったよりも影響が大きいと感じた。
提言では、校舎の改築だけでなく、これからの教育の方針や社会の状況も考慮したい。小中一貫の情報も入手しながら検討を進めるべきだと思う。
- 委員・この機会に、児童数も含めた通学の区分けを検討したい。
・美南ガ丘小学校の地域は子どもが多い。中心市街地はかなり人数が少ないが学校は複数あり、全体のバランスも考える必要がある。今後の生徒数を見越し、大きな建物ではなく、平屋でも子どもたちが過ごしやすい建物・設備に改築する等も含め提言したい。
- 委員・子どもたちにとって、学習環境や学校設備などがより充実した場所であってほしい。子どもが一番だと考える。
- 委員・地域の拠点としての機能や各校の特徴を大事にして、学校は現状を維持してほしい。今まで何度か市民の声を聞いてきた中では、存続の意見が多かったように思う。
・現校舎を改修しながら、複数の学年が同じ教室で勉強する状況等になった時点で、統廃合を考えることでどうか。
・学校は地域防災、地域交流の拠点であり、存続をさせたいという卒業生の思いもたくさん聞いている。子育て環境として、他市町村とは違う取り組みをしていくことも必要。先進地を見学、参考にし、小諸市独自の考え方、方法を考えてはどうか。
- 委員・前回のデータを理解する中で、施設老朽化に伴う改築の必要性や学校規模のあり方を考える必要があるとわかった。また、将来予想される社会についても認識した。
・「こもろ未来プロジェクト」では、国語の充実とともに英語の教科化などが示され、現場の対応が気になるが、大事な事なのでぜひ進めてほしい。
・企業は即戦力を求め、教育が理工系重視に向いていて、大学から小学校にも波及してくるように思う。変容する社会への対応を踏まえた教育内容を検討し学校改築を考えていきたい。
- 委員 今後、小中学校を卒業して間もない若い世代の経験、感想、要望などを聞く機会をつくるというのも一つの方法ではないか。
- 委員・財政状況が厳しくなるが、市施設が老朽化してもインフラが全く整備されない可能性がある。学校改築は子どものために必要だが、非常に大きなお金が掛かるので、十分考えながらやっていかなければいけない。
・学校規模の検討や教員配置などから統合も必要になってくると思うが、市民の大半は反対だと思うので、今から広報し市民に広めていく。このような状況だと知らせしていくことが一番大事だ。
- 委員・まずは、小諸市の教育ビジョンを確認・共有したうえで、検討会要綱の第2条の実現、具体化することが大事。
・少子化の進展に対する小中学校のあり方をどうするのか。以前閉校を体験

したが、平成2年に新築し、平成23年に閉校して学校ではなくなった。少子化については、そのくらい先を読めるようでいて読めない。急激な変化があることも考えておかなければならない。

- ・小中学校の規模については、答えは一つではない。市の全体像の中で適正な規模を見出すことだ。あれもこれもとはならない。
- ・学校は老朽化が進み大変なことになっている。早く結論を出していくことが大事だ。
- ・小中学校の配置や通学区についても、全員が100%賛成するものではない。具体的な提案が必要で、その提案をするのがこの検討会だと考える。

座 長 統合等に対する市民の反対は多いが、生徒数の推移によっては、将来的に考えなければいけないということか。

委 員 状況がいつどのように変わるのかわからないので、よく見極めながら、いろいろなことを決めていった方がよい。

座 長 前回、副座長から提案があり、本日資料を提出してもらったので、少し踏み込んだ話をさせていただきたい。また、小学校の現状を小林委員からお聞きし、問題提起していただく。

4. これからの教育の動向について

○井出副座長より説明

「小諸市で育つ子供たちに込める私たち市民の願い～これからの教育の動向～」

○小林委員より説明

「小学校を中心とした平成元年と比べてみた平成28年度の学校教育の変化の様子」

委 員 現場の先生たちの意識改革などどのように進んでいるか。

委 員・教員になるために受けた教育と違うことを教えていくのは本当に大変で、一生懸命時間を作って勉強している。

- ・小諸市の場合、英語教育が進んでおり、意識的に勉強しているところがある。例えばALTが導入された当初は、ALTに任せておくという授業を行っていたが、今はALTと担任が一緒に行う。そのためには打ち合わせが大変重要で、一生懸命取り組んでいる。教員達にも次第に自信や楽しみが生まれて、教員の楽しさが子どもたちにも伝わるのでいい影響がある。全部の教科でできるか課題はあるが、突破口にしてやっていきたい。

座 長 先生たちの研修の機会は保障されているのか。

委 員 研修の時間はなかなかないが、市の予算により各校で自由に研修することを奨励されている。学校内外で研修ができるのでとてもありがたい。

副座長 3年前から教員研修で千曲小学校に関わっている。教師一人ひとりが育む、養う能力をどうつけていくかを研修し、研究を積み重ね、全ての子どもの育つ姿を見ようと取り組んでいる最中。教員の子どもたちへの接し方が良くなり、成果も出始めている。

また、大学で教員を目指す子どもたちを教えているが、現在は、そうした能力が身につけていないと教員として採用されない。どういう授業をつくるのか、児童・生徒をどう育てるのかという視点をかなり求められる。これから教員を目指すことはかなり大変だ。

座 長 当初、月1回の会議でたたき台が出るのではないかと考えていたが、いろいろな意見が出た。どれも貴重な意見なのであまりのんびりしてられない。卒業生や地域等、委員自身が取材をして発表していただくと多少能率が上がってくるのではないか。